

# ANNUAL REPORT 2021

Teach For Jpan 2021年度 年次報告書

TEACH FOR JAPAN ANNUAL REPORT 2021

教室から  
世界を変える

現職フェロー制度について

<https://teachforjapan.org/gensyoku-11th/>



認定フェロー制度について

<https://teachforjapan.org/nintei-11th/>



Instagram、Facebook、Twitter、Youtube  
メルマガ登録もこちらから





VISION

すべての子どもが、  
素晴らしい教育を受けることができる  
世界の実現

SLOGAN

教室から世界を変える

ACTION

教育をより良くしたいと考える  
多様な人材を、  
教員免許の有無に関わらず選考する

これからの時代を見据えた  
教師としての資質・能力を、  
研修を通して育む



自治体との連携により、  
様々な教員免許状を活用し、  
2年間「教室」に送り出す

10年間の実績

プログラム参加者 **214**名

教育関係のキャリアに進んでいるアラムナイ（修了生） **81.2**%

10年間の  
連携自治体

**17** 都府県

**51** 市区町村

向き合ってきた子ども

**21,871**名

フェロー×教え子による  
トークセッション



フェロー赴任学校

**165**校

特別対談  
フェロー×学校長×保護者×同僚



団体概要

名称 認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）  
Teach For Japan（ティーチフォージャパン）

役員 代表理事：中原 健聡  
理事：松田 悠介（Teach For Japan ファウンダー）  
理事：川島 健資（元ドイツ証券（株）取締役副会長）  
理事：桜井 一正（(株)ポスコンコンサルティンググループマネージング・ディレクター & パートナー）  
理事：田中 満公子（大阪教育大学連合教職実践研究科特任教授）  
監事：齋藤 宏一（アンダーソン・毛利・友常 法律事務所パートナー、弁護士）

会員数 正会員数：13名（2022年2月28日時点）

職員 常勤職員：10名（2022年2月28日時点）  
非常勤職員：2名（2022年2月28日時点）

# フェローシップ・プログラムを軸とした コレクティブ・インパクトの実現

自分は当事者として、社会のために何ができるか。

私とその葛藤と向き合い、より良い社会づくりに挑戦すると覚悟したのは2014年になります。そして、2015年にフェローシップ・プログラムの3期生として学校現場に行き、2019年にTFJのCEOへ就任しました。

Visionに向けて活動する中で、教育格差の解消や公教育のシステム変革を実現するための、リソースや権限を単独で持っているプレーヤーは存在しないということを実感しました。それと同時に、フェローシップ・プログラムは複雑な社会課題の解決に有効な手段ということも確信しました。

2013年に始まったフェローシップ・プログラムの参加者の総数は214人になり、関わった児童生徒の総数は2万人以上になります。2022年度は、15都府県42市区町村の学校現場で100人近くのフェローが活動しています。

TFJはこの10年間、フェロー、自治体、国、企業、地域、研究機関等、様々なステークホルダーに共通の問いを投げかけ、連携を図り、課題を解決する共同体としての関係を構築してきました。このネットワークからコレクティブ・インパクトを創り出し、本質的な社会課題の解決を実現するのが、次の10年のTFJの役割です。

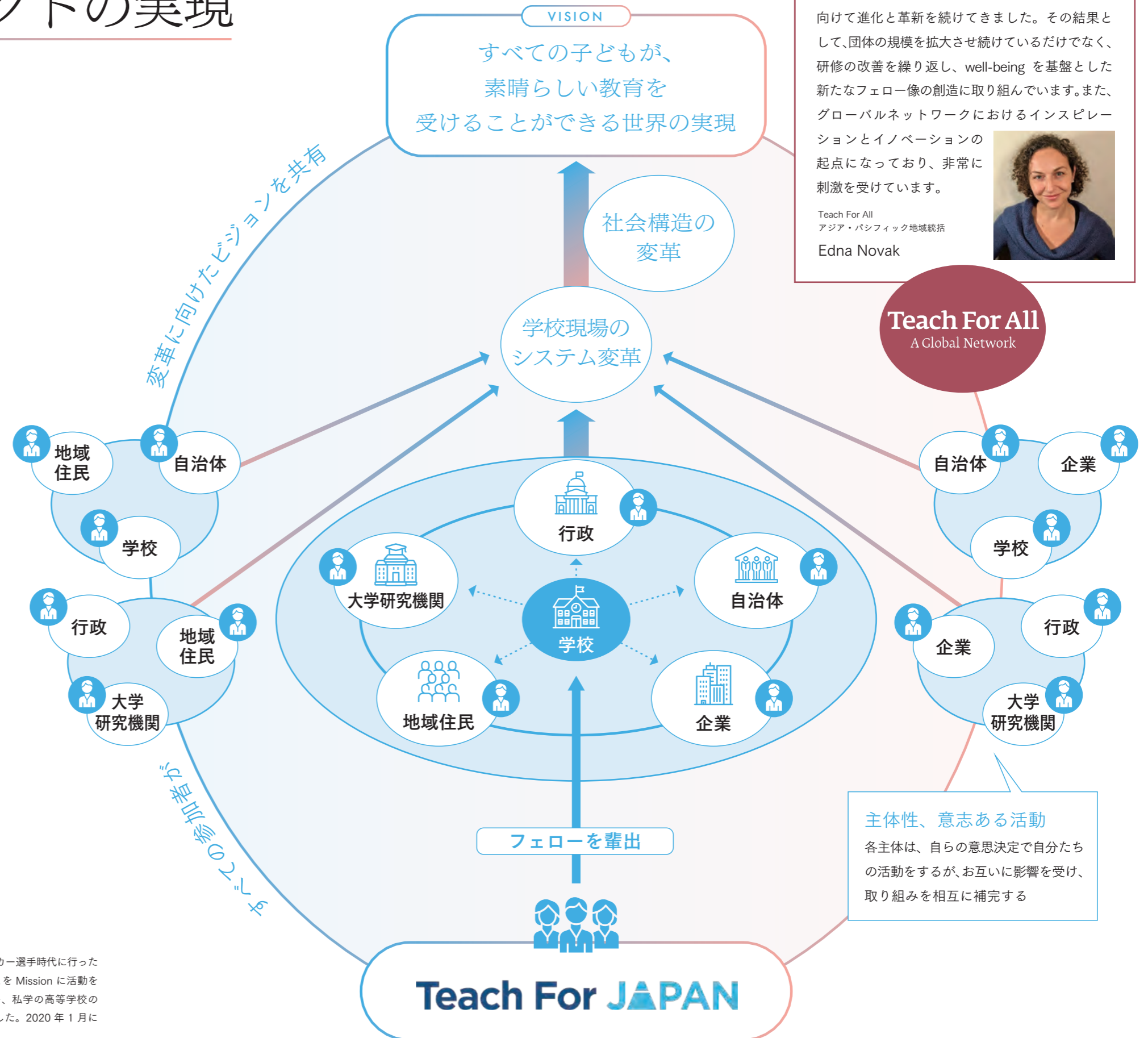
前述の通り、技術的な課題ではない複雑な社会課題の解決に、単独で臨めるプレイヤーは存在しないからこそ、大切なのは共通のVisionに向かい、一人ひとりが今の立場、今自分ができていることに集中し、お互いの成果を競うのではなく繋ぐことです。我々は、「すべての子どもたちが、素晴らしい教育を受けることができる世界の実現」に向けて、世界61カ国のネットワークの一員として世界にも働きかけ、教室から世界を変えます。

是非、私たちと共に、コレクティブ・インパクトを創り出す一人として行動していきましょう。



Teach For Japan 代表理事  
中原 健聡

大学卒業後、スペインへ渡り3年間サッカー選手としてプレー。サッカー選手時代に行ったキャリア教育での講演活動を機に、人が育つ環境をデザインすることをMissionに活動を開始。2014年に帰国後、大学事務職員、Teach For Japan フェロー、私学の高等学校の学校開発・経営に従事。2019年4月より、理事・CEOとして着任した。2020年1月に代表理事に就任。2021年より経済産業省の産業構造審議会の委員。



Teach For Japan は、学び続ける組織として、グローバルな情報に基づき日本の教育課題解決に向けて進化と革新を続けてきました。その結果として、団体の規模を拡大させ続けているだけでなく、研修の改善を繰り返し、well-being を基盤とした新たなフェロー像の創造に取り組んでいます。また、グローバルネットワークにおけるインスピレーションとイノベーションの起点になっており、非常に刺激を受けています。



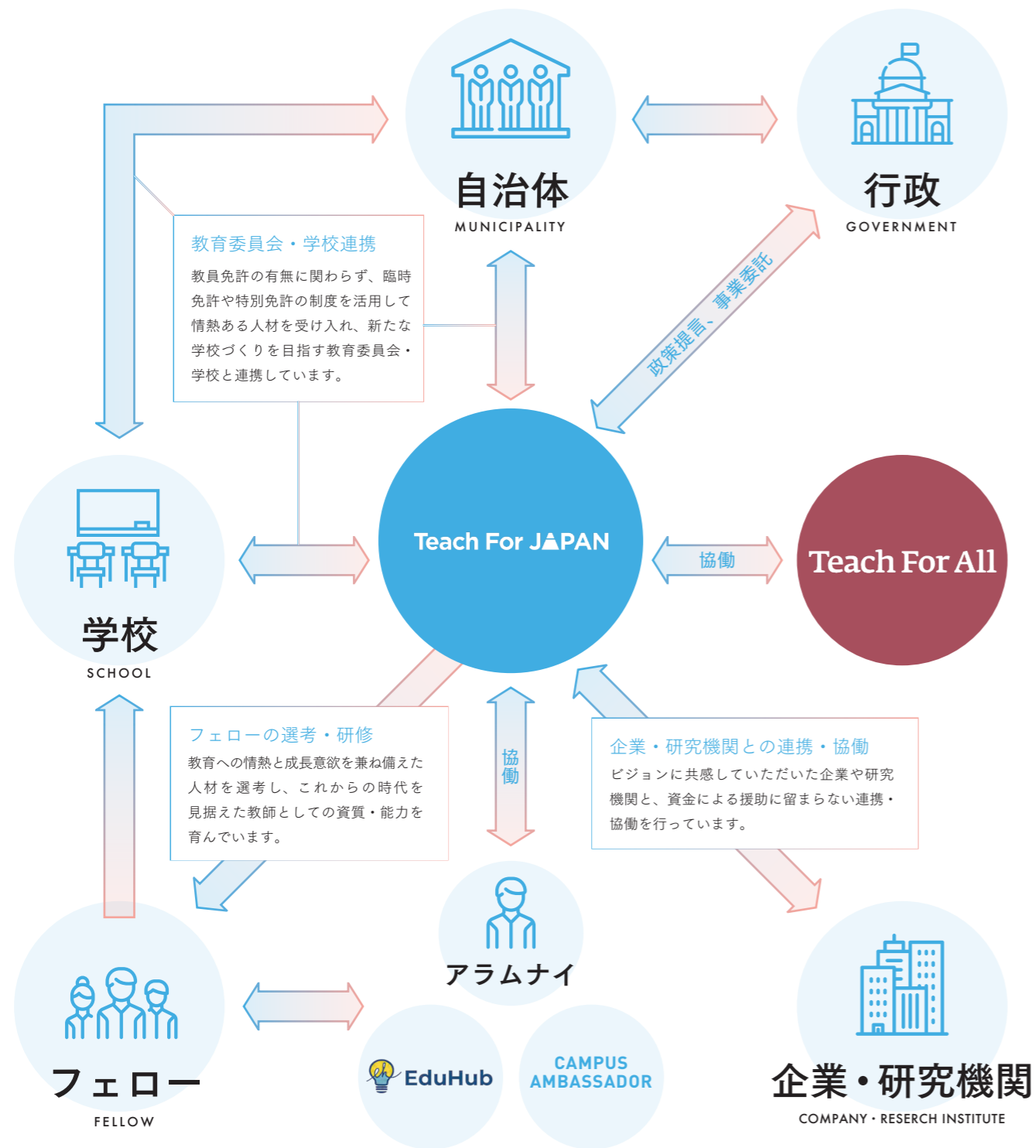
Teach For All  
アジア・パシフィック地域統括  
Edna Novak

Teach For All  
A Global Network

# Relationship

## Teach For Japan の連携関係

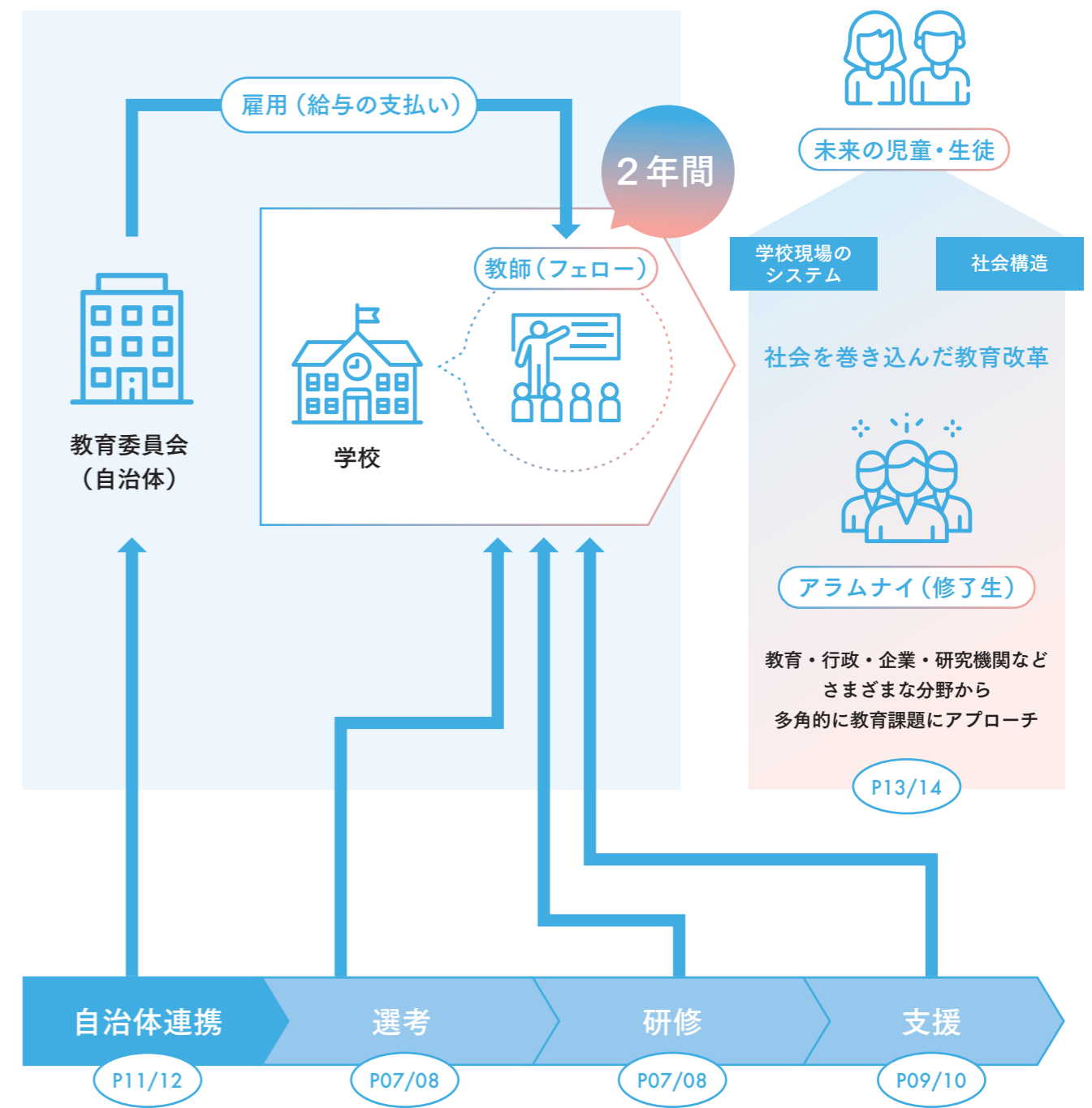
私たちは、様々なステークホルダーとビジョンを共有し、連携を図ることで、複雑な社会課題を解決していくコミュニティを形成しています。



# Fellowship Program

## フェローシップ・プログラム

フェローシップ・プログラムの仕組みは、下記の形です。



01 選考・研修

教育をより良くしたいと考える多様な人材を、教員免許の有無に関わらず選考し、これからの時代を見据えた教師としての資質・能力を、研修の中で発揮させることで、育みます。



学校では、子どもたちが将来新たな課題に直面したときに、必要な情報を集め、これまで学んだ知識と組み合わせることで新たな答えを生み出していく力を身に付けることが重要です。これからの教師は、子どもたちが生まれながら持つ「学ぶ力」を引き出し、磨き高めていく、ファシリテーターの力が求められます。そのため、表面的なスキルや教育技術ではなく、「人はいかに学ぶのか」についての学習理論を学び、自分たちの経験から作りあげられてきた学びのイメージを根本から見直す必要があるでしょう。最新の学習研究により、一人で学習するよりも、誰かと一緒に互いの考えを出し合いながら学習したほうが上手く、深く学べることがわかっています。そして、対話を通じた学びに効果があるのは子どもだけでなく、大人も一緒です。これらの「学ぶ力」を引き出す仕組みがTFJの研修にも埋め込まれています。教員候補者のみなさんには、TFJで学んだ内容と学んだ方法の双方を生かして、学校現場で活躍してほしいと願っています。

誰もが子どもの幸せ、豊かな成長を願っています。そのためには、まず先生お一人おひとりが幸せで、豊かな成長に向かっていなくてはなりません。自分にできないことを他人に施すことは非常に難しいものです。しかし、幸せや豊かな成長に通じる非認知的な能力は、捉え所がなく、経験則によりがちです。ところが科学の発展により、脳で生じる幸せや非認知反応の仕組みが解明されつつあり、世界ではハーバード大学をはじめとし、本気で神経科学を教育に応用しています。TFJでは、幸せや非認知的な能力が何たるかを、深く神経科学的に学び、その what と why を元に、いかに応用するのか、how を皆で考え、対話し、時に実践し、現場に備えます。その学びと準備なくして、いかに子どもの幸せと豊かな成長を見守れるのでしょうか？ぜひTFJでの学びを通じて、ご自身の豊かさを高め、子どもたちにも広げていってくださることを切に願っております。

研修の特徴

- 建設的相互作用を引き起こす対話を重視
- 主体的・対話的で深い学びを体現する研修
- 科学的知見や文献をベースとした設計
- 学びのプロセスを活かす横断的な振り返りシステム



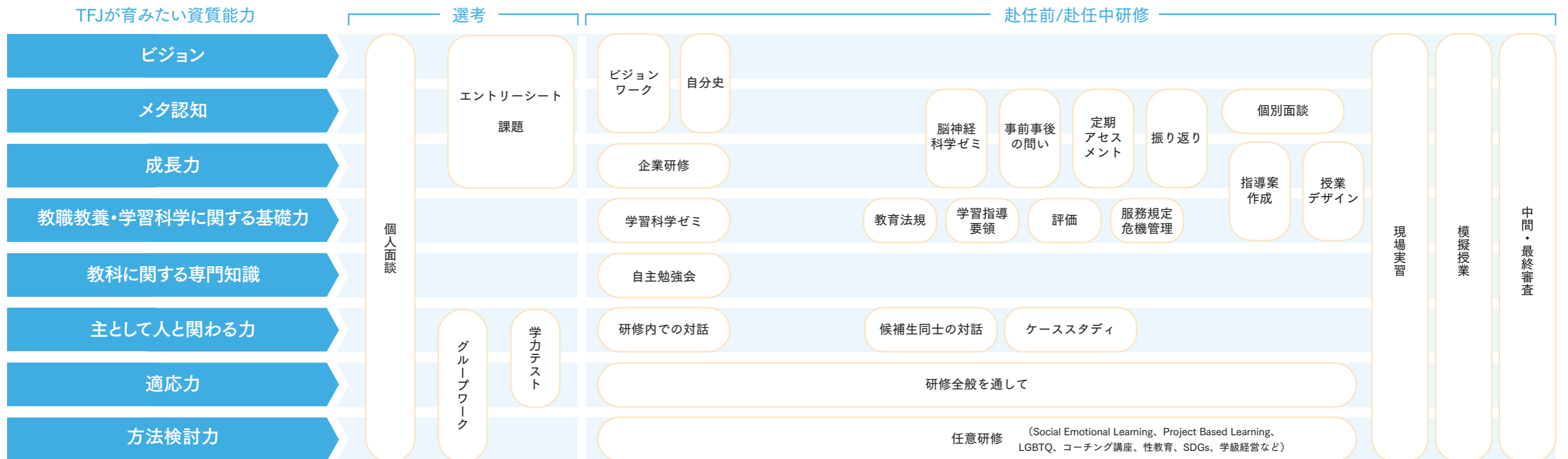
聖心女子大学現代教養学部教育学科 教授 益川 弘如さま

博士（認知科学）。静岡大学教職大学院准教授などを経て2017年4月より現職。国立教育政策研究所フェローを兼任。中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会委員。専門は学習科学、認知科学、教育工学。子どもたちが生まれつき持つ「学ぶ力」を引き出す授業づくりと評価のありかたを追求している。



株式会社 DAnCing Einstein 代表 青砥 瑞人さま

応用神経科学者。日本の高校を中退後、米国のUCLAにて神経科学を学び、2012年に飛び級卒業。帰国後、DAnCing Einsteinを設立。脳×教育×ITの掛け合わせで、脳神経科学の最先端の知見を人材開発や教育の分野に応用するプロジェクトを多数手がける。『BRAIN DRIVEN』など複数の著書も出版。



02 フェロウの取り組み

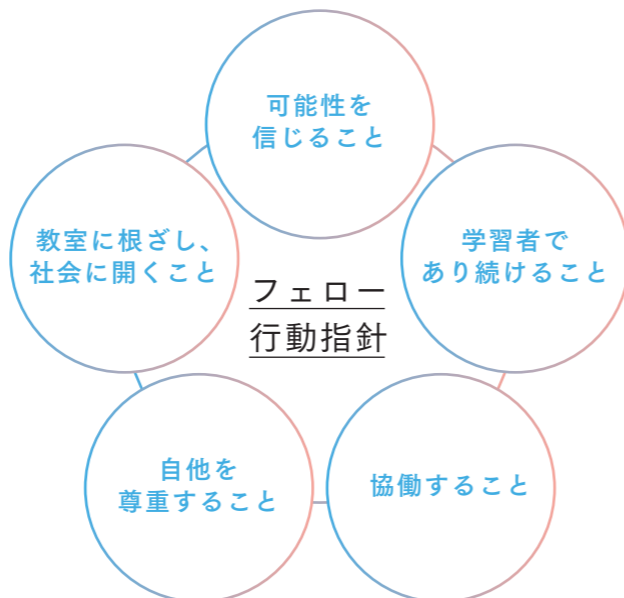
フェローは、子どもたちの可能性を最大限発揮できるように取り組みます。



2021年度赴任状況

フェロー **90** 名 向き合っている児童生徒 **10,154** 名

赴任先学校  
 小学校 **56** 校 中学校 **30** 校



Fellows' Challenge

それぞれの場所で活動するフェローの実践をご紹介します。

小さな島から世界を考える。

私は、長崎県五島市の小学校に赴任しました。赴任した小学校は、九州本土から 100km は離れた透き通るブルーの海に囲まれた島にあります。豊かな自然の中には、「世界の今を学ぶ」たくさんのヒントがありました。五島の自慢のきれいな砂浜には、すみの方にひっそりと海外から流れてきたゴミがあります。ここから、海洋プラスチックの問題へ学びが広がっていきました。また、自然環境を守るために地元で活動している方々からも話を聞き、豊かな自然を守るためにがんばる大人の姿を見ることができました。世界が抱えている大きな課題を解決するには、身近なところから知ることが大切であることを子どもたちと一緒に学びました。これをきっかけに、これからもどんどん学び、世界の課題に立ち向かって欲しいです。



8期フェロー  
吉崎 聡一さん

自分と向き合い、仲間と助け合いながら学ぶ環境を目指して。

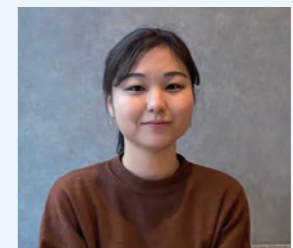
子どもたちが自ら学び協力し合える授業を目指して、算数の授業では「自分学習」や「チャレンジタイム」を考案しました。自分学習では、子どもたちが個人目標と計画を立て、自分のペースで学習を進めます。学び合いや調べながらの学習も OK。毎回「やったこと・わかったこと・次にやること」の3つの観点で学習を振り返り、宿題の内容も各々で決めます。「言われたからやる」のではなく、学習や宿題に主体的に取り組む子が増えました。当初は振り返りの書き方が分からなかった子たちも、徐々に「前にやった〇〇の考え方が使える」「自分は繰り返しがりでよく間違えるとわかったから、必ず見直しをする！」などと書くようになり、分析しながら学習する姿が見られました。今後も、子どもたちのために色々な取り組みをしていきたいです。



9期フェロー  
大川 唯さん

「生きる力」としての英語を。

私は、中1と中2の英語の授業を担当しました。授業では、一人一台端末が整備されている環境を活かして、積極的に ICT を用いて授業を行いました。Google Classroom に授業で使用した全ての教材とスライドをアップロードして、いつでも授業内容を復習することが出来る仕組みを作ったり、ユニットごとの新出単語をまとめたタイピングゲームを作成したりしました。また、ライティングの授業の際、自分が書きたい内容についてタブレットを使って掘り下げて検索したり、英単語の使い方が合っているかを調べていたり、生徒が主体的に英語に向き合っている様子がとても印象的でした。これからの時代を生きていく中で、自分を表現する道具として英語を使うことのできる人材を育てていきたいです。



9期フェロー  
椋山 美生さん

COOPERATE WITH MUNICIPALITY

教育をより良くしたいと考える多様な人材を、教員免許の有無に関わらず、様々な免許状を活用して受け入れ、これからの時代を見据えた学校創りを目指す自治体と連携しています。



2021年8月の年度途中赴任を実現しました！

課題

文部科学省の調査によると令和3年度始業日時時点の小・中学校の教員不足人数は2,086人となっており、その原因の一つに産休・育休、病休者数の増加などがあげられています。これらは年度途中で発生することがあり、年度途中でフェロー赴任を希望する声を自治体の方々からいただく頻度が高くなっていました。

解決方法

年度途中で教員不足を解消する取り組みの一つとして、約3ヵ月間の短期集中型の研修を実施。理論的な研修と現場実習を密に行うことで、8月後半の赴任を目指す取り組みを新たにスタートしました。

結果

短期集中型の研修を経た3名のフェローが2021年8月に広島県と福岡県に赴任。年度途中からの学校現場へのフェロー入職を実現しました。

TFJの早期赴任研修では、学習科学や教育心理を中心に短期間で集中して学びました。赴任後は指導方法工夫改善担当として、学習科学の概念を活かして、子どもたちがよりよい学びを享受できるよう日々試行錯誤しています。

小学校赴任  
中田 知宏さん



面談申し込みフォーム



Teach For Japan との連携をご検討されている自治体担当者様はこちらよりフォームの入力をお願い致します。

各自治体の方々からのメッセージ

教育委員会



熊本県教育庁  
教育総務局学校人事課長  
磯谷 重和さま

熊本県では、「夢を実現し、未来を創る 熊本の人づくり」を基本理念に、子どもたちの個性や能力に応じた多様な学びの場を提供し、可能性を大きく広げるための環境づくりを進めています。令和2年度からTFJとの連携を始め、熊本地震で被害の大きかった益城町や令和2年7月豪雨の被災地である球磨地域で、2年間で10名の先生方に尽力いただいています。勤務先等からは、「民間企業や海外生活経験等、多様なバックグラウンドを持った先生方が多くの刺激を与えてくれる」との声が届いています。充実した赴任前研修や赴任後のフォローアップ等、TFJの熱意と丁寧な対応等に感謝するとともに、連携のさらなる充実を図って参りたいと考えております。

教育長



福岡県  
田川市教育長  
吉柳 啓二さま

田川市は、かつて「炭都田川」と呼ばれ、活気と人情が売りの街でした。しかし、炭鉱閉山後は、貧困家庭の増加、地域のつながりの弱まり等、子どもたちの教育環境は厳しさを増していました。そのような中、田川市教育委員会は、「家庭環境の厳しい子どもたちが多いからこそ、最高の教育環境を！」という目標を掲げ、平成28年度から「田川市ならではの教育改革」に取り組み始めました。まさにその時、「生まれた環境に関わらず、すべての子どもたちにより質の高い教育を！」というTFJの取り組みを知り、平成28年度より計9名のフェローを学校現場へ受け入れました。彼らの強い思いと高い志向性により、各学校で「新しい教育の風」を巻き起こしてくれています。ありがとう！これからも思い切り、たのむバイ！

学校長



熊本県  
嘉島町立嘉島西小学校  
荒牧 和子さま

突然の、3か月にわたる一斉臨時休校から始まったコロナ禍ですが、丸2年が過ぎました。この「災害」は、ICT環境整備がなかなか進まなかった公立学校に大きな変革をもたらしました。学校と家庭を結ぶオンライン授業を想定して、様々な環境整備をすることを迫られたのです。そのような中で、本校に赴任しているフェローは、他の職業で培ったICTスキルと、海外青年協力隊などでの経験を活かし、学校のICT教育を推進しました。彼からは「できない」ではなく、できる人から、できるところから始めれば、案外進んでいくものだということを学びました。「人とかかわることが好き」という共通点があれば大丈夫。様々な経験を持つTFJとの連携を、今後も継続していきたいと思えます。

教育委員会



和泉市教育委員会  
教育指導監  
大槻 亮志さま

中原代表理事から直接活動の概要を伺い、私を含めた教員養成に課題意識を持つ本市委員会事務局課長以上6名（教員出身）が、直接TFJの研修に参加させていただいたことが本市とTFJの出会いでした。その中で、私自身強く感じたことは、「学校現場を理解し、教師という職務に正面から取り組んでいる」ということでした。TFJの目指すビジョン、そして研修を実際に体験することで、TFJと連携することを決断しました。以来、TFJとの連携も3年目を迎えることとなりますが、フェローの方々子どもに寄り添いながら活動する姿を見て、当時の決断は誤っていなかったと実感しています。

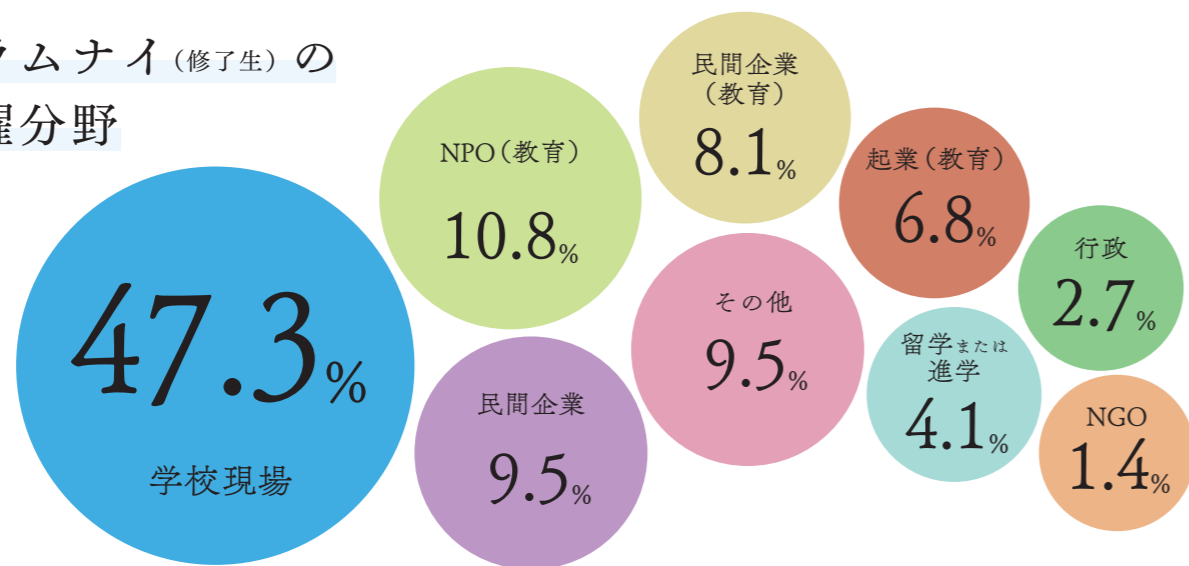
連携いただいている自治体の一部



2年間子どもたちと向き合い続けたアラムナイ（修了生）は、その後さまざまな分野に活躍の場を広げ、多角的に教育課題にアプローチします。



アラムナイ（修了生）の活躍分野



アラムナイからの声

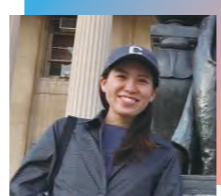
アフリカ4カ国の教育協力プロジェクト(教科書開発、学校とコミュニティの協働強化による教育の質改善、職業訓練等)の計画・管理に携わっています。フェロー時代、子どもの力をどう伸ばすか考え続けた経験が活かしています！

国際協力機構 人間開発部 基礎教育グループ 専門嘱託 村松 良介さん



学校教育を通して、子どもたちが自己理解や多様性の理解を深めるために何ができるか、心理学の視点から研究しています。教育現場とアカデミアをつなぐ架け橋になりたい！

コロンビア大学 大学院 発達心理学専攻 山本 茜さん



フェローの想い  
フェローが教えた子どもたちの声



教え子  
M.Yさん

僕は中学校で風間先生から英語を学びました。パソコンを用いた個別課題やグループディスカッションを用いた主体性・協調性を育む授業を通して、高校受験と大学受験で英語を1番の得点源にすることができました。大学受験は、風間先生の母校である慶應大学を目指し、勉強に励んだ結果、九州大学に合格することができました。福岡の片田舎で生まれた僕の視野を広げ、慶應大学受験、九州大学合格に導いて下さった風間先生には本当に感謝しています。

教室のテーマは「主体的な進路選択の実現」。子どもたちに視野が広がる機会を届けたいという思いで日々授業に取り組みました。子どもたちが学力をきちんと身につけることで、選択肢を増やすことができたり、自分に自信を持てるようにしたりすることはもちろん、授業を通じて出会った知識・経験・考え方が、今後やってくる進路選択のタイミングで何かのヒントになる、そんな未来を信じて子どもたちと一生懸命な日々を過ごしました！



4期フェロー  
中学校英語  
風間 亮さん



教え子  
K.Sさん

増永先生と3年生で出会って変わった事は、学年全体の雰囲気だと思います。2年生の自分たちは学校に慣れず、あまり活発ではありませんでした。しかし3年生になってからは違いました。特に大縄大会では、初めは思う様に記録が伸びずに皆の士気が下がったけど、先生だけは違いました。先生が皆に教えた声掛けによって、大縄大会は成功しました。それからの私たちは明るく積極的なクラスになりました。飯塚に来るときは連絡して下さい！

一番子どもたちに伝えていたことは、「チャレンジすること」そして「自分をありのままに表現し、相手を受け入れること」でした。私自身がそれを子どもたちに伝えているからこそ、自分も主体的にチャレンジし続けなければと心に決め、地域を巻き込んだ施策や新しい体験活動を行うことを心がけていました。私ばかりが貰ってばかりの2年間でしたが、地域に根付いた教育と、外と中がなめらかに接続される学校のあり方に、少しでも寄与できていたら嬉しいです。



4期フェロー  
小学校  
増永 純女さん



# 応援 メッセージ



文部科学省学校デジタル化  
プロジェクトチームサブリーダー  
高橋 洋平さま

## “教室は、世界そのもの。”

近頃、教師の働き方や部活動、校則などをめぐって、学校教育がブラックだと指摘されることがありますが、本来の学校はカラフルで多様性に溢れた場であるべき。学校と社会を越境するTFJフェローによって、自由闊達で豊かな教育が生み出されていくことを期待しています。TFJのスローガンに「教室から世界を変える」があります。文部科学省は社会に開かれた教育課程とも言いますが、子どもたちには「教室は世界そのものであり、世界全体が教室なんだ！」と気づいてほしい。TFJが目指すものに共感し、教育をカラフルにする仕事を一緒にしていきたいと思っています。



東京学芸大学 理事・副学長  
松田 恵示さま

## “これからの時代には、必要不可欠。”

今、学校を大きなエコシステムとして捉える見方が、OECDなどを中心に広がっています。つまり、「学校には子どもと先生がいる」という単純な見方ではなく、様々な背景を持つ子どもや先生、保護者の方、地域の方、教育委員会の職員など、本当に多くの方が学校に関わっています。さらに、ICTやネット環境、校舎などの環境・設備についても誰かが意思決定をして作られています。そしてそれらは、メディアなどを通じて醸成された、「学校はこうあるべき」などの意識を支えている「見えない背景」も関係しています。これらのことを踏まえると、学校はとても複雑な生態系のように、多様な関係性の中にある大きなシステムです。だからこそ、多様な立場や観点が混じり合い、話し合われて運営される必要があります。Teach For Japanの取り組みは、まさにその環境を創り出す必要不可欠なものだと思います。「日本中に広がってほしい」と心から願っています。



昭和女子大学ダイバーシティ  
推進機構キャリアカレッジ学院長  
熊平 美香さま

## “教育の進化を担う団体。”

すべての子どもが、素晴らしい教育を受けることができる世界の実現を目指し、立ち上げにも参画した Teach For Japan の進化から目が離せません！ Teach For Japan は、多様なバックグラウンドを持ち、多才で情熱に溢れる教師と学校現場をつなぎ、同時に、教育の進化にも大きく貢献しようとしています。最先端の脳科学や学習科学に学び、進化し続ける中原健聡代表のエクセレンスへのこだわりは、Teach For Japan に集う先生たちの信条でもあります。教室から世界を変える Teach For Japan の先生たちが増えることで、子どもたちの未来が変わる教室が実現し、TFJの先生たちの人生もアップデートすることを確信致しております！



株式会社三菱UFJ  
フィナンシャル・グループ経営企画部 部長  
飾森 亜樹子さま

## “世界を進めていく想いに共感。”

三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)は、会社のパーパス(存在意義)として「世界が進むチカラになる。」を掲げています。全てのステークホルダーが課題を乗り越え、持続可能な未来や新たなステージへ進む、その思いを叶えるチカラになる、そのために全力を尽くすという決意です。私は、研修でセブ島のスラムを訪れ、何日も若者達と行動し対話を重ねたことがあります。貧困、教育格差など様々な社会課題があまりに複雑に絡み合い、どこからアプローチすべきか、負の連鎖をどう断ち切れればよいのか、とてつもない重い体験でした。それでも子どもたちの笑顔がチカラに、一つ一つ丁寧に社会課題をときほぐし、できることから行動するのだと思います。「教室から世界を変える」という Teach For Japan の mission に共感し、MUFGは、心から応援しています。

## 連携企業コメント

2021年より、Teach For Japanのフェロー候補生が実施する模擬授業にEYの社員が生徒役として参加し、改善点などを一緒に考える活動をさせていただいています。みなさんの、より良い授業を届けようと子どもたちのために努力する姿に、参加した社員も「みなさんの情熱にとっても感動した」「教育現場の課題について、より興味がわいた」と刺激をいただきました。私たちにできることで、今後もTFJを応援したいと思います。

EY Japan 株式会社  
EY Ripples  
プロジェクトリーダー

川村 菜海さま



Teach For Japan様は既存の枠組みにおける教育への貢献にとどまらず、「場」、「カリキュラム」、「人」をコアにより良い教育を実現することで「教室から世界を変える」を追求されています。UiPathもすべての人がロボットを使いこなす社会、『A Robot for Every Person』というビジョンを実現するために、Teach For Japan様の「人」に係る取組におけるデジタル時代に適応できる人材育成支援を通じて「教室から世界を変える」を応援しています。

UiPath 株式会社  
CEO 室

末廣 満さま



## SPONCERS



## SPECIAL THANKS

株式会社麻生 / 株式会社麻生キャリアサポート / 特定非営利活動法人九州・アジア経営塾 / 小林 大介 / Salvage Design / 株式会社 すららネット / UiPath 株式会社 / 一般社団法人 READYBOX / 株式会社 LoiLo

※50音順・敬称略 ※サービスや場所、知見を格安、あるいは無償で提供頂いた方々を掲載しております。

すべての子どもが、素晴らしい教育を受けることができる  
世界を実現するために、あなたにできること。

**MONTHLY**  
マンスリー・サポーター

月々 1000 円から  
継続的にご支援いただける方

**ONETIME**  
ワンポイント・サポーター

1 回 1000 円から  
その都度ご支援いただける方

**CORPORATE**  
法人サポーター

法人としての寄付や  
協働・連携をご検討の方

**BEQUEST・OTHERS**  
遺贈・その他

遺言により財産を特定の団体などに無償で寄付する  
遺贈や古本の寄贈、ハチドリ電力を通じて  
ご支援いただける方

詳しくはWEBサイトをご覧ください。

Teach For Japan 寄付

検索

<https://teachforjapan.org/>



SNS

@TeachForJapan

@TeachForJapan

@teach\_for\_japan

その他の活動

**CAMPUS  
AMBASSADOR**

キャンパスアンバサダー・プログラムとは、Teach For Japan インターンシップの総称で、教育やキャリアについて様々な角度から考え、プロジェクト活動を通じて、企画力やリーダーシップを高める3ヶ月のプログラムです。これまでに150名以上の大学生がキャンパス・アンバサダー(CA)として活動し、修了生はTeach For Japan フェローや教員をはじめ、教育系民間企業や NPO 法人など様々な形で教育に携わっています。



プログラム参加者  
大学名一覧  
(順不同)

京都大学大学院、筑紫大学大学院、東京学芸大学大学院、九州大学、千葉大学、クイーンズランド大学、ライデン大学、早稲田大学、慶應義塾大学、津田塾大学、立命館アジア太平洋大学、国際基督教大学



EduHub とは、「教育の未来に向けて活動する全ての人にとっての実験の場」として設立したコミュニティです。教育に思いを持ったメンバーが集い、2020年8月に立ち上げました。教育に関心がある方であれば、どなたでもご参加いただくことができます。

コミュニティ  
参加人数

466名

EduHub コミュニティの属性

年齢層は、大学生以下 15%・20代 30%・30代前半が一番多く 60代の方までいらっしゃいます。職種は、学生・学校教員・行政・教育系の職業の方から、民間企業の方まで幅広く広がっています。

活動計算書

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
<b>経常収益</b>		
1.受取寄附金		57,073,524
受取寄附金	57,073,524	
2.受取助成金等		30,994,930
受取民間助成金	30,709,930	
受取補助金	285,000	
3.事業収益		16,913,114
事業収益	16,913,114	
4.その他の収益		549,552
受取利息	725	
雑収入	548,827	
<b>経常収益 計</b>		<b>105,531,120</b>
<b>経常費用</b>		
1.事業費		
(1) 人件費		39,673,257
給料手当	35,123,530	
法定福利費	4,535,377	
福利厚生費	14,350	
(2) その他経費		20,244,393
インターン活動費	534,576	
荷造運賃	84,713	
広告宣伝費	7,542,117	
会議費	11,034	
会場費	160,677	
旅費交通費	1,408,161	
通信費	286,631	
消耗品費	19,625	
事務用品費	9,720	
新聞図書費	625,586	
印刷・製本費	100,186	
諸会費	41,000	
支払手数料	337,136	
支払報酬料	9,052,120	
支払利息	28,991	
雑費	2,120	
<b>事業費 計</b>		<b>59,917,650</b>

<b>経常費用</b>		
2.管理費		
(1) 人件費		4,105,092
給料手当	3,382,400	
法定福利費	618,512	
福利厚生費	104,180	
(2) その他経費		4,773,734
荷造運賃	8,684	
会議費	32,221	
会場費	6,435	
旅費交通費	58,964	
通信費	678,420	
消耗品費	6,808	
事務用品費	128,606	
水道光熱費	134,845	
新聞図書費	4,510	
印刷・製本費	1,643	
諸会費	39,500	
支払手数料	79,145	
支払リース料	495,000	
地代家賃	1,584,000	
賃借料	132,000	
租税公課	2,653	
支払報酬料	983,400	
雑費	396,900	
<b>管理費 計</b>		<b>8,878,826</b>
<b>経常費用 計</b>		<b>68,796,476</b>
<b>当期経常増減額【A】-【B】…①</b>		<b>36,734,644</b>
<b>【C】経常外収益</b>		
経常外収益 計		0
<b>【D】経常外費用</b>		
経常外費用 計		0
<b>当期経常外増減額【C】-【D】…②</b>		<b>0</b>
<b>税引前当期正味財産増減額①+②…③</b>		<b>36,734,644</b>
法人税、住民税及び事業税…④		70,000
前期繰越正味財産額…⑤		53,804,807
<b>次期繰越正味財産額③-④+⑤</b>		<b>90,469,451</b>

その他情報

上記以降の情報については右記の URL より WEB 上にて確認いただけます。



貸借対照表

(単位：円)

	科目	金額	小計・合計
資産の部	1.流動資産		
	受取寄附金	108,863,586	
	未収金	4,851,964	
	未収入金	12,050	
	前払費用	184,876	
	①流動資産 計		113,912,476
	2.流動資産		
	(1)有形固定資産		2
	器具備品	2	
	(2)投資その他の資産		80,000
敷金	80,000		
②固定資産 計		80,002	
【A】資産 計 (①+②)			113,992,478
負債の部	1.流動負債		
	未払金	3,486,392	
	預り金	374,136	
	前受金	70,462	
	前受助成金	9,522,037	
	未払法人税等	70,000	
	③流動負債 計		13,523,027
	2.固定負債		
	長期借入金	10,000,000	
	④固定負債 計		10,000,000
【B】負債 計 (③+④)			23,523,027
正味財産の部			
前期繰越正味財産額		53,804,807	
当期正味財産増減額		36,664,644	
【C】正味財産 計			90,469,451
負債及び正味財産 計 (【B】+【C】)			113,992,478

財産目録

(単位：円)

	科目	金額	小計・合計
資産の部	1.流動資産		
	現金預金		108,863,586
	新生銀行/本店	61,300,107	
	みずほ銀行/渋谷中央支店	9,987,855	
	三井住友銀行/丸の内支店	33,681,210	
	三菱UFJ銀行/新橋支店	3,798,048	
	ゆうちょ銀行	96,366	
	未収金		4,851,964
	受託事業	4,851,964	
	未収入金		12,050
	過年度 源泉所得税過納分	2,277	
	経費過払分等	9,773	
	前払費用		184,876
	事務所家賃(4年1月分)	121,000	
	その他諸経費	63,876	
	①流動資産 計		113,912,476
	2.固定資産		
	(1)有形固定資産		2
	器具備品		
	Apple iMac	2	
(2)投資その他の資産		80,000	
敷金			
タイムズ24	80,000		
②固定資産 計		80,002	
【A】資産 計 (①+②)			113,992,478

	科目	金額	小計・合計
負債の部	1.流動負債		
	未払金		3,486,392
	従業員立替	98,395	
	社会保険料	1,769,640	
	その他諸経費	1,618,357	
	預り金		374,136
	源泉徴収税	196,519	
	住民税	82,500	
	社会保険料	95,117	
	前受金		70,462
	長期借入金利子補給金	70,462	
	前受助成金		9,522,037
	令和3年12月期前受助成金分	9,522,037	
	未払法人税等		70,000
	令和2年12月期確定申告分	70,000	
③流動負債 計		13,523,027	
2.固定負債			
長期借入金		10,000,000	
新型コロナウイルス感染症特別貸付	10,000,000		
④固定負債 計		10,000,000	
【B】負債 計 (③+④)			23,523,027
正味財産 計 (【A】-【B】)			90,469,451